

平成 25 年度第 2 回経営会議概要

- 1 開催日時：平成 25 年 7 月 17 日（水）9:05～9:15
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題 1 総勤務時間縮減運動について

●後田行財政改革推進課 課長補佐兼班長（資料 1 に基づき説明）

各部局労使協働委員会で設定した今年度の総勤務時間の目標について報告。総勤務時間縮減運動については、近年の時間外勤務時間数が、高止まりになっていることを課題ととらえ、昨年度より各部局と検討しているところである。また、昨年度の総勤務時間は過去 2 番目に低い、休暇取得数は過去最高である一方、時間外勤務は、過去最悪であったため、今年度の目標設定については、時間外勤務の縮減に向けて丁寧に取り組んだところである。結果、一定の時間外勤務時間数の削減目標にはなっているが、例年の削減目標とかわらず、また例年の傾向として目標を超える実績となることが多いため、現在実施している「仕事リフレッシュ」を通じで仕事のやり方を見直していただき、目標値以下となるようマネジメントをお願いしたい。

●稲垣総務部長

時間外勤務時間数については、平成 12 年度以降過去最高ということもあり時間外勤務時間数は努力していただきたいとお願いしたところであり、全体の数字をみたところは、努力をしてもらっているが、部局によっては、昨年度実績から増加する目標となっているところがあり、それぞれどのような状況であるかについて説明をお願いしたい。

☆山口戦略企画部長

4 月～6 月の実績をふまえて目標設定をした。特殊要因としては、IT 推進課から WEB サイト運用管理部門が今年度移管されたことと行啓対応があげられる。特殊要因だけで一人あたり既に 12 時間増加しているなか、年間では 6 時間増におさえた削減目標である。

☆佐伯雇用経済部副部長

25 年度運動指針により部労使協働委員会を経て整理した数値であり、特殊要因としては、営業本部拠点の開設準備、三重県フェア等の事業の本格化、国の経済対策の中の緊急雇用対策等があり、これらに対応するため時間外勤務時間数が増加しているなかで、設定した目標である。

☆中川出納局長

昨年度の時間外勤務時間数はとても少なかったこと、5 年ごとのシステム更新対応があり、特殊要因を加味したものである。なお、5 年前のシステム更新の際と比較すると半減する目標である。

●稲垣総務部長

それぞれ事情はあるかとは思いますが、時間外勤務時間数は、目標数値を超えることがないように、また休暇についても、リフレッシュ休暇、メモリアル休暇を活用していただいて、総勤務時間縮減に向けてマネジメントをお願いしたい。

☆植田副知事

特殊事情はあるかもしれないが1年間通してということではない。季節的なもの、ある時期だけであれば、部内で人を集中して配置させるなど部局長のマネジメントの中で対応していただく必要がある。目標の段階から100%を超えることは言語道断である。労使協働委員会で設定した目標であるので、やむを得ないが、業務を見直すことや部内、課内の配置を考えてもらうなど、積極的なマネジメントで実績は大きく減るよう努力してもらいたい。

☆鈴木知事

昨年度の結果は、休暇取得時間数や満足度が上がっている中で、時間外勤務時間数は、過去最悪であった。各部局とも重要な仕事が目白押しということは十分理解するし、頑張ってもらっていると思うが、重要な仕事があるから単に時間外が増えるという短絡的な考え方ではなく、人員をフレキシブルに配置するなど、重要な仕事があるときこそ、念のための仕事を集中的に排除するなど仕事のやり方をドラスティックに変えてほしい。重要な仕事があるのは理解するが、目標の段階から100を超えるというのは残念である。上半期の実績をふまえてもう一度議論し、目標設定して減らす努力をしてほしい。